

I 令和5年度の運営総括及び来期の課題

昨年5月に新型コロナウイルスの感染症が5類に移行し、それまで制限されていた生活がようやく戻りつつありできることがまた増えてきた。しっかりとした感染症対策し、利用者が安心安全に利用できる児童館運営をしていきたい。

1. 乳幼児事業

(1) 総括

今年度は春から乳幼児親子の来館があった。昨年度より通常のちびっこ広場の参加者は少し減ったが、ちびっこ広場の季節の行事はあつという間に予約が埋まり季節行事を楽しみにしている保護者が多かった。夕方の来館が昨年度よりも多かった。

児童館を通じて誰かと話したり笑い合ったり、悩みを共有することで保護者の心が軽くなり、また子ども達も同年代の子どもと関わり合うことでより豊かな発達につながっていく。

①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っている。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等となっている。『ちびっこ広場』への参加を目的に来館する親子が多く、親子で一緒に手遊びやふれあい遊びをしたりする楽しさを共有している。昨年度も利用している幼児の多くが、保育園や子ども園に通うことになったため今年度は昨年度より利用が少なかった。季節のイベントはとても好評で、すぐに予約が埋まった。0～3歳児の幅広い月齢児が参加していた。乳幼児親子は、月齢の高い子ども達が生き生きと広場を楽しむ様子を見て刺激を受けるよい流れができていたように思う。

②移動児童館

あじほ保育園から要望があり、4、5歳児対象のカプラ遊びの移動児童館を実施した。

事前に職員と先生が作ったタワーの柱抜きをした後、基本的な積み方をみんなで行った。その後、自由に想像力をふくらませ、好きな物を作った。5歳児の担任の先生からみんな協力して一つの作品を作りたいとのリクエストがあった。次回も要望があったら保育園に出向いていきたい。

③つくって遊ぼう

毎月第2週目の水曜日に親子で一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行った。季節に合わせた工作や、月齢の低いお子さんでも遊べる手作りおもちゃなど、親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきた。今年度は、少し月齢の低い子ども達の参加が多かったため、保護者の記念に残るよう子どもの手形・足形を行い飾っても楽しめるようなものを製作した。家庭で工作材料を用意して作るのは手間がかかるため、このような工作は大変喜ばれた。今後も保護者のニーズに沿ったものを提供していく。

③しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオーエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2 歳の子どもの母親対象に支援を行っている。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽に話したり育児の悩みを相談し合ったりするのが目的だ。今年度は、親子で体を動かして体験できるリトミック、ゆったりとした時間を楽しめるピアノと歌のコンサートや人形劇、また、母親（保護者）もリラックスできるように子どもと一緒にできるママヨガを行った。どの行事も好評でまたやってほしいとの声が多かった。

⑤BP 講座

BP 講座は 2~5 か月の第 1 子とその母親を対象とした、初めての育児の学び、親子の絆づくり、仲間づくりを目的とした全 4 回コースだ。子どもの発育についての勉強会をし、同じ月齢の子どもを抱える母親としての悩みや思いを共有し合い、仲間としての絆を深めた。

（2）来期の課題

味方児童館は土日に父親が幼児を連れて来館することが多いため、今年度は外部講師をお招きして父親向けの講座や父親と子どもの父子向けイベントを行う予定だった。

しかし、来館した父親に話を伺ったところ、父親対象の講座に参加するのはハードルが高く感じ、講座に参加するよりも子どもと遊戯室で体を動かして遊ぶ方が良いという意見が多かった。今後も利用者のニーズを探っていききたい。

また、南区は子育て施設がとても多く、いろいろな所でイベントを行っている。イベントが重なり、どちらかを選択しなければならない事があった。折角のイベントが重ならないよう会議等で調整していききたい。

2. 小学生事業

（1）総括

昨年度よりも利用人数が増えた。味方児童館で人気の三步ドッジボールをするために来館する子が多い。

低学年の大半の児童は学童クラブを利用している。利用していない児童は仲間、遊び場を求めて児童館に遊びに来る。「おやつよりも児童館がいい」とおやつを食べずにすぐに児童館に遊びに来ている。2 年生は学童クラブの後に利用する子も多く、児童館で待ち合わせをしている。

中学年は自分達で自転車やバスを利用して遊びに来ている。面倒見の良い子が多く、お手伝いが好きだ。下級生の話をよく聞いてくれる子が多い。

児童館に頻繁に通っている子ども達はいろいろな意見やアイデアが出てくる。子どもたちの方からイベントを企画したいという声が上がった。

また、利用のルールをよく知ってもらうための工夫を提案してくれるなど子ども達にも改めて“自分達の児童館”として大切に考えてもらうことができたと思う。今後も子ども達の気持ちに寄り添いながら、一緒に楽しい児童館をつくりあげていきたい。

①定例行事『なかよし広場』

『なかよし広場』は、毎月1回、その日に遊びに来ていた小学生が、30分間職員の企画したレクリエーションをして遊ぶというイベントだ。職員が企画したレクリエーションを行うので、子ども達が自分では思いつかないような遊びができ、遊びが広がるというメリットもある。今年度は低学年が参加しやすいようにやった事がある遊びを取り入れながら行った。「なかよし広場」は他学年の子ども同士で交流できるので、そこが良い部分だと実感する。

②移動児童館

今年の『移動児童館』も例年通り『味方ひまわりクラブ』で二度行った。一度目の内容は子ども達が座っていてもその場でできるレクリエーションとビンゴゲームを行った。

二度目は、毛糸で冬のオーナメント作りを行った。上級生が下級生に教えている姿をたくさん見ることができた。今回は子ども達と合わせて支援員にもアンケートに答えていただいた。可能な限り要望に応えられるようにしたい。

来年度は月潟小学校区にも移動児童館に行く予定だ。利用者のニーズを探っていきたい。

③南区児童館 4館合同ドッジボール大会

今年度は、開館して以来、初めての4館合同のドッジボール大会を開催した。会場は、白根児童センターで低学年の部、高学年の部に分かれて行った。たくさん子ども達と知り合う事ができ、強いと認めてもらい自信になった子もいた。他学校、異年齢交流ができた。3月には2館合同で、白根北児童館でドッジボール大会を実施した。ドッジボール大会は大人気で来年度も継続してほしい声が多数上がっている。アンケートからも満足度が窺えた。

ワーカーズコープが南区全体の児童館を運営しているからこそその強み、連携を大いに発揮できた。今後もこのようなイベントを継続していきたい。

(2) 来期の課題

味方児童館の特徴ともいえる異年齢の子ども達同士の交流は盛んだ。上級生が下級生を受入れ一緒に遊ぶ姿が日常的に見られる。

一方で三歩ドッジボールでは、ボールを当てられて悔しがり、ボールが当たった事を認めることができなかつたり、ボールを当てた相手に悪口を言ったりする子が目立つ。

また、自分の意見を主張しすぎる事からトラブルになる事が多い。もう少し相手の話を聴いたり、気持ちを考えたりできると良いと感じる。言葉がけをしながら見守っていききたい。

3. 中・高生事業

(1) 総括

近年ますます中学校との連携のパイプが強まってきていると感じている。味方中学校とは、児童館各行事のボランティアの募集を積極的に協力していただいたり、中学生の情報交換のための会議の場に招いていただいたりと、密な連携をとっている。そのおかげか、「児童館は小学生が行くもの」というイメージが最近では払拭されてきているように感じる。昨年よりもさらに来館者数が跳ね上がり、開館以来、一番中高生の来館が多い年だった。高校生は中学生の時に来館していた生徒が、高校生になり定期的に遊びに来ている。日々の生活の話や学校、バイト、友達関係の話などをスタッフに話して帰っていく姿が頻繁に見られる。小学生の遊び相手や小中学生の話し相手もしてくれる事で、小学生も憧れを抱き、自分達よりも下の年齢の子ども達に優しく接してあげたり面倒を見てあげたりすることができてきている。児童館を利用した子ども達が成長し、自分達がしてもらったように今度は下の世代に返していく、こうした循環が双方に良い刺激と成長を与えていると思う。この流れを大切に、幅広い世代が交流できるよう手助けしながら見守っていききたい。

①中学生お楽しみ会

中高生事業は、9月の味方中学校代休日に「中学生お楽しみ会」を開催した。今年度は多くの中学生が来館した。遊戯室が使用できない時や小学生の来館が多い時は、中高生の居場所がなく、乳幼児の来館が無い時間帯に乳幼児専用の集会室で勉強したり、廊下や事務室の隅でおしゃべりしたりして過ごすことも多く、スマホの使い方などで職員が注意すると、反抗的な態度になることもあった。

そんな様子から、折角来館してくれている中学生を対象に中学生のためのイベントをやりたい、一緒にイベントを企画、準備し、職員も楽しい時間を共有することで信頼関係を築いていきたいと思い企画した。

夏休み前から中学1年生女子2名と一緒に準備を進め、外広場で水風船、水鉄砲、しゃぼん玉、コイン落としなどをやった。中学生限定で特別感があり、笑顔で夢中になって遊んでいた。遊戯室では、ビンゴゲームをやりアンケートでは、ほとんどの生徒が「楽しかった」と満足していた。次回も一緒に企画から参加してもらいイベントを実施していきたい。

②クリスマス会

今年も味方中学校吹奏楽部に依頼し、クリスマス演奏会を行った。吹奏楽部はハンドベル、歌、楽器紹介も取り入れ、精一杯子ども達を楽しませようとしている姿が嬉しくとても頼もしかった。

今年はいくさんの人に参加してもらいたいという思いから演奏会の鑑賞できる対象を小中学生40名と定員の枠を広げた。それでもまだキャンセル待ちが出るほどとても人気のあるイベントだ。中学校の校長先生、教頭先生、吹奏楽部員の家族も演奏会に出席された。高校生になったOGもかけつけ、搬入搬出の手伝いを率先して行い、とてもあたたかい表情で後輩たちの演奏を見つめ、和やかな雰囲気を作り出していた。

③豆まき会

2月3日に豆まき会を行った。中高生が思いきり体を動かすことができるように「中高生の部」を設けて行った。当日は早めに来館し、事前準備を手伝ってくれ、本番は「小学生の部」の時に福の神やお菓子交換係をやってくれた。

④中学生優先タイム

今年度は中学生の居場所を作りたいと考え、夕方の遊戯室利用の枠に中学生優先タイムを設けた。4時20分～5時20分までの1時間で、中学3年生男子は時々この時間に合わせて遊びに来て、卓球やサッカーなどをして体を動かしてリフレッシュしている。

(2) 来期の課題

今後中高生の話に耳を傾け、中高生がストレス発散できる場にする。遊戯室など中高生優先タイムを設け、来館者しやすい居場所を作りたい。味方中学校の運営協議会に引き続き参加し、今後も連携を深めていきたい。

3. 地域との連携事業

①味方地区公民館との連携事業

- ・育児講座ベビーマッサージ（7月）
- ・陶芸教室（7、8月）
- ・クリスマスリース作り（12月）

②コミュニティ協議会との連携事業

- ・敬老会に参加（9月）

③味方小学校との連携事業

- ・クリスマス会吹奏楽部演奏会（12月）

④ボランティアとの連携事業

- ・ちびっこクリスマス会
- ・クリスマス会
- ・ちびっこ広場での絵本読み聞かせ